

企画展示（観賞温室第2室）

- 7月6日(水)～9月4日(日)「食虫植物展 ーみんなで楽しむ食虫植物ー」
- 9月7日(水)～11月13日(日)「宮沢賢治と吉田千秋ー二人の植物学」
- 9月7日(水)～10月2日(日)「絶滅危惧植物展」(※観賞温室第3室)

住宅内展示（観賞温室第3室）

- 7月18日(月)まで「里山と人里」
出展：小国生物友の会
- 7月20日(水)～8月7日(日)「切手でみる世界の奇木珍草展」
出展：JPS植物切手部会
- 8月9日(火)～8月28日(日)
「自然素材でつくるおとぎの森の生きものたち」
出展：NPO法人お山の森の木の学校
- 8月30日(火)～9月11日(日)「博物館実習生展示」
- 9月13日(火)～9月25日(日)「ひょうたん展」
出展：西島シーニアクラブ大和会
- 9月27日(火)～10月16日(日)「ハワイアンキルト作品展」
出展：伊藤真里子ハワイアンキルト教室

特別展示

- 7月26日(火)～8月7日(日)「大輪朝顔展」
会場：観賞温室第3室住宅花壇／出展：西島シーニアクラブ大和会
- 8月30日(火)～9月4日(日)「変化朝顔展」
会場：花と緑の情報センター1階(入場無料エリア)／出展：新潟変化朝顔同好会

花と緑の教室

会場(または集合場所)：花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から) ※参加無料

- 7月14日(木)10:00～11:30 「植物園花散歩④」
講師：倉重祐二(植物園副園長)
- 9月4日(日)13:30～15:00 「変化朝顔を楽しむ」
講師：石川昇(新潟変化朝顔同好会)
- 9月8日(木)10:00～11:30 「植物園花散歩⑤」
講師：倉重祐二(植物園副園長)

花と緑の教室特別企画「植物と食文化講座」
第1回「摘み草料理『草花菜(くさはな)』」

7月20日(水)11:30～13:30

会場：ワンデিশェフの店 田から屋

定員：36名 参加費：1,500円

講師：近永(草花菜会)・倉重祐二(植物園副園長)

受付期間：6月10日(金)～7月13日(月)

夏休み親子教室 参加対象：小学生(保護者の同伴が必要)
会場(または集合場所)：花と緑の情報センター

- 7月31日(日)「食虫植物を育ててみよう①」10:00～11:30
「食虫植物を育ててみよう②」13:30～15:00
各定員：15組 参加費：500円
- 8月3日(水)「ハーブグッズを作ろう」10:00～11:30
定員：20組 参加費：900円
- 8月6日(土)「植物標本を作ろう」8:00～11:00
定員：15組 参加費：無料
- 8月7日(日)「携帯電話やスマートフォンで撮る植物」10:00～12:00
定員：10組 参加費：無料

申込方法●往復ハガキでお申込ください。応募多数の場合は抽選となります。

・返信の文面(申込は往復ハガキ1枚につき1教室のみ)

- ①希望する教室の日時・教室名
- ②参加するお子様の氏名・年齢※同伴者の方お1人につき、お子様は2名まで
- ③同伴者の方の氏名・続柄 ④電話番号

・返信の宛名欄／申込される方の住所・氏名

・返信の文面／記入不要

以上をご記入の上、7月19日(火)必着で下記までお送りください。

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186 新潟県立植物園「夏休み親子教室」係
抽選結果は、7月20日(水)以降に発送する予定です。

夏の特別イベント「真っ暗闇ナイトツアー」

8月14日(日)・15日(月) 集合場所：花と緑の情報センター

1回目20:45～21:30・2回目21:15～22:00 / 定員各回25名

申込方法●往復ハガキでお申込ください。

・返信の文面(申込は往復ハガキ1枚につき4名まで)

- ①希望の日時 ②参加する全員の氏名 ③申込代表者の電話番号

・返信の宛名、返信の文面、申込締切日、送り先は「夏休み親子教室」に準じます。

ただし「真っ暗闇ナイトツアー」宛てとしてください。

9月18日(日)・19日(敬老の日)9:30～16:00
秋の植物園まつり

会場：エントランス広場ほか
内容：バックヤードツアー、自然素材を使った体験教室、物販など

9月18日(日)・19日(敬老の日)はシルバー料金無料デー
65歳以上の方の温室入館料が無料となります。

夏休み夜間開園 8月14日(日)・15日(月)

開館時間を20:30分まで延長(入館締切20:00)。夕涼みの時間帯に、夜に花開き、香りを放つ植物の夜の世界をゆっくりとご観賞ください。

期間限定●夏のお出かけ応援 小中学生料金無料!

7月20日(水)～8月31日(水)まで、小中学生の温室入館料が無料に。この期間はお子様向けの展示や教室を開催しています。ぜひご家族でお出かけください。

期間限定●無料シャトルバス運行中!

7月3日(日)及び7月9日(土)から8月28日(日)までの土曜・日曜は、当園とJR古津駅の間を無料シャトルバスが運行中。1時間に1本程度の運行です。詳しくはお問い合わせください。

熱帯植物ガイドツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

- ①10:40～ ②14:40～(土・日・祝日は13:40から実施)

当日温室発券カウンターにて受付・定員制

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。
来園のほか電話、FAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。
専用ダイヤル0250-24-6437 受付日:水曜・日曜10:30～15:00

●観賞温室利用案内

開館 / 9:30～16:30(入館締切16:00)

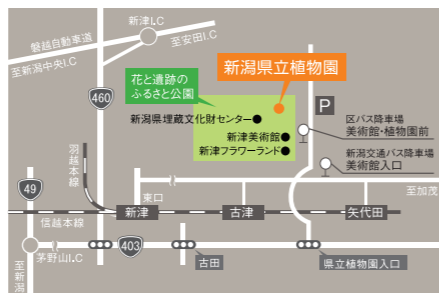
入館料 / 大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円 ※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(●休館日 ■夜間開園日)

7	8	9
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ ・ ・ 1 2	・ 1 2 3 4 5 6	・ ・ ・ ・ 1 2 3
3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10
10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17
17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24
25 26 27 28 29 30	28 29 30 31 ・ ・ ・	25 26 27 28 29 30 ・

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 / 磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路 / (新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J R / 信越線古津駅から徒歩約20分
バス / 区バス:新津駅東口から「うららこすじ」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



登録範囲は、事務局、鳥屋野湖スポーツ公園事務所(園地・スタジアム)、薬師寺記念公園事務所、植物園です。



新潟県立植物園

植物園だより



ナツエビネ

Calanthe reflexa

〈ラン科〉

低い山から深山の木陰に生えるエビネ属の一種であるが、他のエビネ類の大部分は早春に花が咲くが、本種は夏になってから咲き出すので此の名が付られた。普通は深山のブナ林などの薄暗いやや湿ったところに稀れにあるもので群生はしない而し大株では5～6本の花柄を出すので花時には中々見ごたえのある地生ランである。

葉は数枚が根生し、長さ20～30cm。一見エビネに似ているが縦のしわが深く葉質はやや堅い。冬でも枯れず年を越す。(富樫信平 解説)

S54.8.8 荒川町産(高坪山) 富樫信平画

食虫植物展

—みんなで楽しむ食虫植物—

平成23年

7/6(水)～9/4(日)

今年も夏恒例の食虫植物展が7月5日より観賞温室にて開催されます。今年のテーマは「みんなで楽しむ食虫植物」。お子様だけではなくご家族全員で楽しめる企画を考えています。お子様のためのコーナーは第3温室2階に会場を移し、楽しみながら夏休みの宿題も片付けられるような展示を行います。観賞温室第2室では食虫植物が多く生える湿原の風景をモチーフに展示を行います。日本を代表する湿原である尾瀬の美しい写真も織り交ぜながら、清涼感あふれる展示を行います。どうぞ皆様お誘い合わせの上お越しください。

企画展示



昨年の展示の様子



企画展示

宮沢賢治と吉田千秋 —二人の植物学

平成23年

9/7(水)～11/13(日)

秋は芸術にふれるに最適の季節です。今回は植物学や園芸学にも造詣が深かった童話作家で詩人でもある宮沢賢治、そして賢治と同時代に生き、「琵琶湖周航の歌」の原曲「ひつじぐさ」の作曲者として知られる吉田千秋の展示を行います。

宮沢賢治は小学生のころから植物への関心が非常に深く、盛岡高等農林学校在学中は土壌学や植物学などを学び、花巻農学校の教諭となつてからは土壌・地質・農業などのほか植物学も教えていました。農民の生活の向上を願い、自らの知識と技術をいかして農作指導に晩年を費やしました。展示では、彼が設計した花壇を模した展示のほか、作品に登場する植物や状景を紹介し、宮沢賢治の自然や植物の世界に触れたいと思います。

宮沢賢治と同時代に生まれた吉田千秋は、音楽だけではなく博物学への関心も高く、特に植物学や園芸学に強い関心を持っていました。展示では植物学の視点で、同時代人である賢治と千秋の植物への深い思いをさぐります。

絶滅危惧植物展

平成23年

9/7(水)～10/2(日)

日本に自生する7,000種類の植物のうち1,690種類が絶滅の危機に瀕しています。植物は食物や薬、建築材料等、直接的な利用だけではなく、情緒を育て、また絵画や文学等の芸術面でもなくてはならない存在です。

今回の展示では同時開催される宮沢賢治の世界をとおして、かつては普通に生えていた絶滅危惧植物にスポットを当てます。

企画展示



宮沢賢治も作品で取り上げたオキナグサは絶滅危惧植物

園地●園地の木陰

植物園の木々たちも13年のときを経て徐々に大きくなり、厚みのある木陰でゆっくりくつろげるようになりました。園地一番の木陰はエントランスわきのケヤキの木の下です。植栽後はなかなか元気が出ず、前年に伸びた枝が冬になると枯れてしまいましたが、7年前に施された土壌改良の結果が3年ほど前から出始め、今年はずいぶん濃い木陰を作ることができました。

二番目の木陰は、池のわきの三角に並んだモミジバフウ(別名アメリカフウ)でしょうか。北米中南部から中米に原産する落葉樹で、日本には大正時代に渡来し、公園や街路樹として植栽されています。モミジバフウの魅力は木陰だけではなく、秋になると赤色～黄色に紅葉し眺望を彩ります。夏にはイガイガの実(さく果)が垂れ下がります。

この他にもハリエンジュ、スダジイ、ギンドロ、ラクウショウなどの樹木や樹林地が木陰を作っています。お好みの木陰を探してみてくださいはいかがでしょうか。

(田中良明)



ケヤキ



モミジバフウ



モミジバフウ



ギンドロ



スダジイ



ハリエンジュ



ラクウショウ

園内
ウォッチング

温室●香る熱帯植物

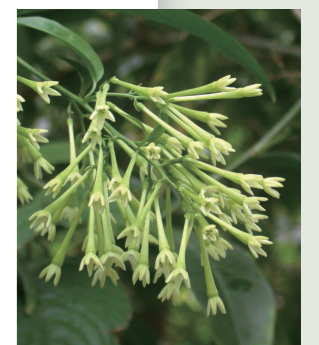
熱帯は日中の気温が高いこともあり、動物や昆虫は夜に活動するものが多くあります。それらの動物に受粉を助けてもらう熱帯の植物は、夜になると、目立つ色の花を咲かせたり、香りを放つたりなどの工夫をしています。夜に温室をまわるとなるほどそのとおりで、あちこちから昼間は感じない香りがしてきます。

ヤコウカ(夜香花)はその名のとおり夜に香る花を咲かせてガを誘い、花粉を運ばせます。その花は細長く、ガの口吻にあつた形をしています。サンユウカも同じように香りでガを誘い、花色が紫から白に変化するニオイバンマツリは夜にいっそう強く香ります。

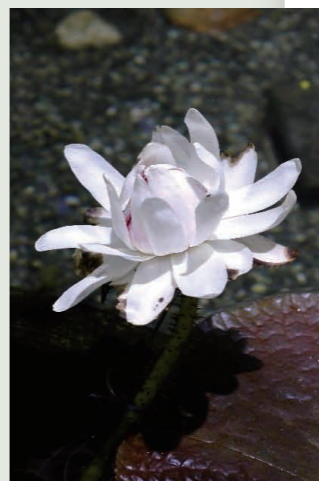
オオオニバスの花は夜に開き、翌朝閉じて夜にもう一度開く、という咲き方をします。熱帯植物ドームでも、1日目の花が開く夜は、夕方から池の周辺に甘い香りが広がります。

8月には夜間開園を予定していますので、ご来園の際は温室にただよう「香り」に注目してみてください。

(林 寛子)



上:ヤコウカ 下:サンユウカ



オオオニバス

NEWS 1 夏休みの教室情報



もうすぐ楽しいな夏休みですね。お父さんお母さんはちょっと大変ですが…。そんな夏休みを充実させるべく植物園は今年も様々な体験教室や親子教室を開きます。例年行われているものに加え、親子教室では「携帯電話やスマートフォンで撮る植物」を新たに開講します。身近な道具を使って植物園の植物を撮り、そのあと講評してもらえます。親子10組限定で行いますので期限までに忘れずにご応募ください。また体験教室では「折り紙で作る花や虫」を開講します。夏休みの宿題にも、記念のおみやげにもできますので、皆様のご参加をお待ちしています。こちらは随時参加を受け付けますので、人数の制限はありません。

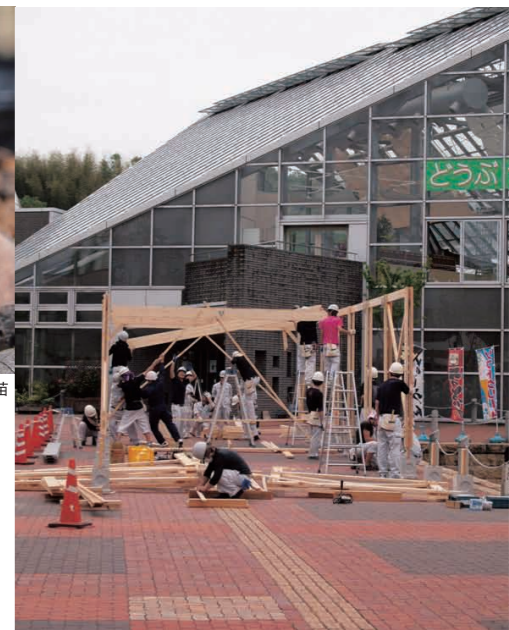
どちらの教室も8月7日(日)に行われます。その他の教室も含め詳細は本誌巻末ページをご覧ください。植物園は皆様のご来園を心よりお待ちしております。(佐藤純一)



昨年の様子



苗



トンネル作製風景

NEWS 3 ゴーヤのトンネル

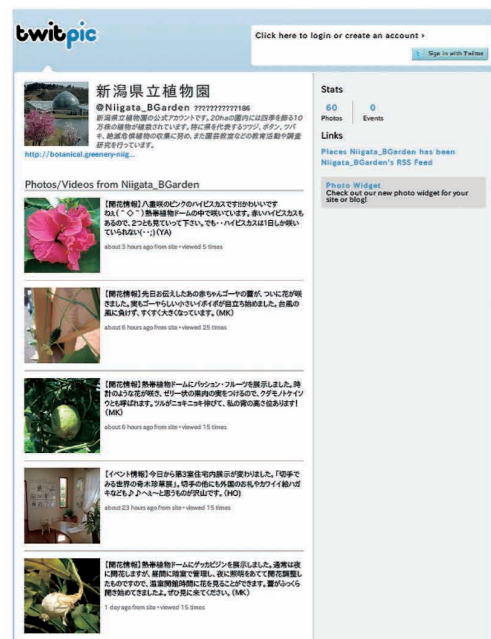
今年も各地でゴーヤーなどのつる性植物をつかった「グリーンカーテン」がつくられていますね。当園でつくったのはカーテンならぬトンネル。長さ18m、高さ5mの大きかりなものです。新潟工科大学の学生さんが授業の一環で訪れ、2日足らずで作りあげていただきました。一方で5月末にボランティアのみなさんに種まきをお願いして苗の準備を進めてきました。

そして、6月中旬にはトンネルにネットを張り、20株を植えたプランターを配置しました。執筆中の今はまだ小さな苗ですが、これから旺盛に育って夏の暑さを紛らせてくれることでしょう。(林 寛子)

NEWS 2 ツイッターと電子書籍の発行

6月18日から当園でもツイッターをはじめました。開花やイベントの情報を写真と共にリアルタイムでお知らせしておりますので、是非ご覧ください。コンピューターや携帯電話がインターネットにつながっていれば、ツイッターに登録していなくても、「ツイッター」で検索し、サイト内から「Niigata_BGarden」で再度検索すれば、ご覧になります。すでにツイッターをはじめている方も、フォローをよろしくお願ひ申し上げます。画像つきでみると、さながらミニ植物図鑑です。

さて、もう一つ、昨年8月からはじめたNHK出版の運営するサイト「みんなの趣味の園芸」の当園の植物園日記、今年3月まで分を電子書籍として発行します。8月初旬の発行に向けて、現在準備中です。スマートフォンやタブレット型コンピューターでもご覧いただけますので、ダウンロードをよろしくお願いいたします。(倉重祐二)



NEWS 4 新任職員紹介!

はじめまして。この4月から植物園の企画課に配属された佐藤です。いつも園内や観賞温室を徘徊しています。見かけたら声を掛けて下さい。ただし、花や木のことはまだ聞かないで下さい。ただ今勉強中です。こんな調子ですから、皆様のお役に立てることは少なく申し訳ないと思ひながら、観賞温室や情報センターの片づけをコツコツやっています。

企画展示「どうぶつのない動物園」は、いかがでしたか?なるべく節約するために、ポスターも自分でデザインしました。オブジェの買い付けや組立も自分でやりました。新津の幼稚園や保育園にポスターとチラシを届けにも行きました、折れないように巻いて、リボンを一つずつ付けて。見かけよりも割りとまじめに働いているつもりです。「みんなで楽しむ食虫植物」も僕の担当です。毎日忙しく楽しい日々を過ごしています。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



北蒲原郡聖籠町網代浜で撮影



新潟の植物

ケカモノハシ *Ischaemum aristatum*

新潟県の海岸線は、およそ330km(佐渡、粟島を除く)。昔ほどではないにしろ砂浜の長い海岸が続きます。このような海岸線の砂地に自生するのがイネ科のケカモノハシで、草丈が30cm～70cmになる在来の多年草です。ケカモノハシの他に新潟に自生するカモノハシ属の植物には毛の少ないカモノハシがあります。

ケカモノハシを漢字表記すると毛鴨の嘴(嘴:くちばし)と書きます。

一見すると普通の株立するイネ科の草に見えるのですが、葉の間から出た棒状の穂を観察すると、穂は2本に分かれており扁平な面で互いに寄り添って1本のように見えます。この分かれた穂を鴨の嘴に見立てたのが和名の由来です。そう思うと、しだいに鴨の嘴に見えてくるから不思議です。

カモノハシ類は、めずらしい植物ではありませんので、海水浴に行かれたときに浜辺で見つけたら観察してみてください。

(田中良明)

植物と食文化

笹だんご



左:チマキザサは収穫後、洗って、束ねて、干して使用する
上:三条市での笹だんごづくり

新潟といえば、米と酒、雪のイメージがありますが、お菓子で新潟と言えば柿の種でしょうか。それと忘れていけないのは、お土産でも有名な笹だんごです。現在は時を問わず食べられますが、もともとは端午の節句のための「晴れ食」の団子でした。

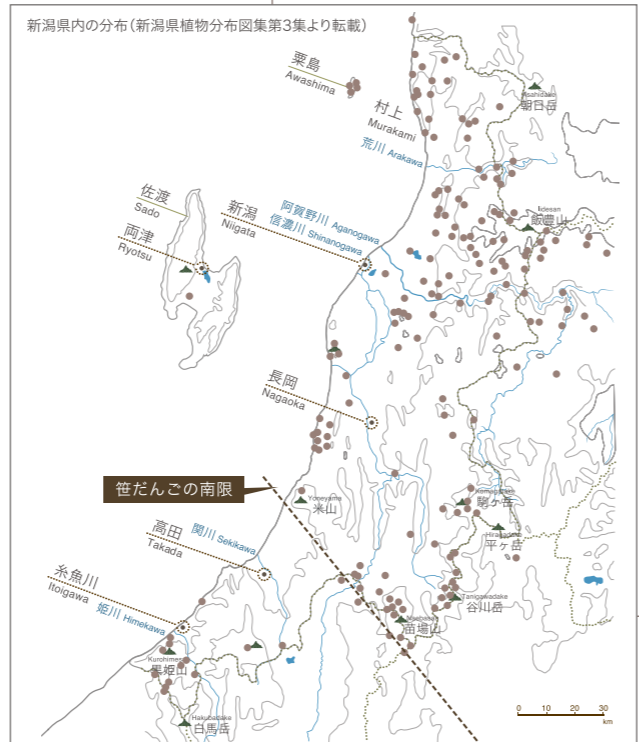
新潟では桃の節句、旧暦の4月3日には雪が残っている地域がありますが、6月5日には田植えなどの農繁期が終わることもあって、端午の節句の方が盛大に祝われます。この時に食べるのが笹だんごです。うるち米ともち米の粉をこねて、この季節に香り高いヨモギを入れ、あんを包んで、俵型にします。ササの葉3枚で団子を巻いて、蒸し上げればできあがりです。

笹だんごは、柏餅のかわりに食べられるもので、新潟県内でも下越(村上市)から中越(柏崎市から十日町市)までの地域でつくられています。

新潟に来た時に笹だんごがなぜつくられようになったのか得心しました。関東では見たことのない、葉の大きいチマキザサ(*Sasa palmata*)が平地にたくさん生えているのです。身近に生える大葉のササを、物を包むのみ使用したことはごく自然の成り行きだったのでしょう。「越後名寄」(1756)にも「笹」の項に、「端午ノ粽ヲ包ミ、鮮ノ蓋トシ」とありますので、古くから利用されていたようです。

「新潟県植物分布図集 3」(1982, 植物同好じねんじょ会)のチマキザサの分布図に「新潟の食事」(1985, 農文協)に示された笹だんごの南限ラインを重ねてみました。すると、ちょうどラインの東側、チマキザサの分布が多い地域が笹だんごをつくる地域、分布の少ない西側がつからない地域となることが分かりました。

食生活も植物の分布に密接に関係しているようです。(倉重祐二)



友の会通信

春の植物園まつりに出店

友の会では、今春も植物園まつりへ出店しました。

屋外テントで、友の会のPR、毎回好評の苗の販売を行ったほか、昨年から行っているチューリップで花絵づくりを行いました。

まずは植物園まつり1日目の5月4日午前中に紫雲寺のチューリップ畑へ花摘みに。会員有志12名で、予定数の10,000本を午後の花絵づくりまでに摘み取って帰るという大仕事です。摘んだ花が無事植物園へ到着すると、来園者のみなさんに参加してもらっての花絵づくりが始まりました。花をさすのはチューリップ型のボード。完成後は池に浮かべ、水面にも色鮮やかなチューリップが咲きました。



出店風景



花摘み



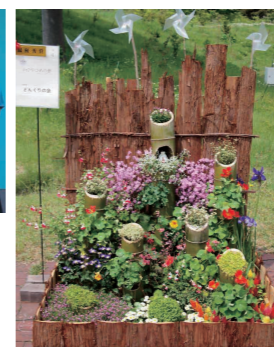
完成



制作



授賞式



作品

ミニガーデンコンテスト 最優秀賞受賞!

植物園で行われる「にいつ花ふるフェスタ」でのイベント、ミニガーデンコンテストに出展しました。会員有志が集まって作りあげた作品のタイトルは「かぐや姫の夢」。1m×1mのスペースに竹細工と季節の花をセンス良く組み合わせました。展示期間中に植物園来園者をふくむ関連施設利用者によって行われた投票の結果、一般部門の最優秀賞に輝きました!

会員同士が交流し、力を合わせることで結果を出せたのはたいへん喜ばしいことです。次回の機会には、より多くの会員のみなさんの参加をお待ちしています。

春の日帰り旅行

6月12日に、三条市(旧下田村)の高城城址ヒメサユリの小径へ行ってきました。植物園の倉重副園長が、植物ラベルや解説版の制作や設置にかかわったこともあり、今回の案内をお願いしました。

気候のせいヒメサユリの開花が遅れ、5日までの予定だった「ヒメサユリ祭り」がこの日まで延長されました。肝心のヒメサユリはさすがに終盤でしたがまだ楽しめました。

参加されたみなさんは説明に熱心に耳を傾け、「一種でも多く記憶に残したい」「花や実ばかりでない植物のさまざまな姿を見られて楽しかった」などと感想を寄せてくださいました。



ヒメサユリ



観察風景

集合写真

新潟県立植物園 友の会 会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

年会費(4月より翌年3月まで)

●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員(一口) 10,000円

会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員(わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています)

●齋藤不動産 ●株式会社アート環境設計 ●株式会社アート